

火山が噴火した際には、様々な火山災害現象が起こる可能性があります。なかでも、噴石(火山弾)や火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流などは生命への危険が大きく、早急な避難が必要となる現象です。現象の危険性を認識し、普段からハザードマップで災害の予想区域を確認しておきましょう。

噴石(火山弾)



1989年 十勝岳

噴火に伴って、火口から吹き飛ばされる噴出物で、握りこぶしより大きな岩が弾道を描いて飛んできます。中～大噴火では、吹上温泉や望岳台付近まで到達する恐れがあります。

●被害を防ぐためには

- ・丈夫な建物の中に避難
- ・外ではヘルメットを着用

火砕流・火砕サージ



1988年 十勝岳

高温の火山灰・岩片・火山ガスが高速で押し広がる、破壊的で非常に危険な現象です。火砕サージ(高温爆風)は更に遠くまで襲い、中噴火でも展望岳付近まで到達することがあります。

●被害を防ぐためには

- ・到達域から事前に避難

融雪型火山泥流



1926年 十勝岳

積雪期の火砕流や崩壊などで、雪が急に融けると泥流が発生します。砂防対策を進めていますが、市街地まで達する恐れもあります。

●被害を防ぐためには

- ・山に雪がある時に噴火した場合は、速やかに避難

降雨型泥流(土石流)

大量の降雨が原因で土砂や泥水が入り混じって流れ下る現象です。火山灰が新たに積もると降雨型泥流が発生しやすくなります。

●被害を防ぐためには

- ・降雨時には沢に近寄らない

火山ガス

火口や割れ目から有毒ガスが吹き出します。

●被害を防ぐためには

- ・火山ガスが溜まりやすい火口や凹地、割れ目に等には近づかない、風向きに注意

岩屑なだれ

爆発で山の一部分が崩れ、岩なだれが起きる現象です。

火山灰(降灰)



1977年 有珠山

火山灰や軽石が噴煙となって吹き上げられ、火山灰が風下で降り積もります。視界不良やぬかるみで車の走行は難しくなります。

●被害を防ぐためには

- ・マスクやゴーグル等を着用(目の保護等)
- ・風向きやその変化に注意

溶岩流



1983年 三宅島

高温の液体状の溶岩が斜面を流れます。十勝岳では、その速さは人が歩く程度で、比較的ゆっくり流れるため、徒歩での避難が可能です。

●被害を防ぐためには

- ・落ち着いて避難
- ・爆発の危険があるため、近寄らない